

民藝誕生 100 年 京都が紡いだ日常の美

令和 7 年 10 月 21 日（火曜日）

京都市京セラ美術館

参加者：6 名



宗教学者で思想家でもあった柳宗悦が唱えた民藝とは、無名の職人が日常の中で生み出す美しく健康やかな物にこそ本当の美しさがあるという事です。また「用の美」、即ち飾りではなく日々の暮らしの中で使われる器や道具の中に美が宿るという信念のもと、全国を巡りその鋭い眼力で陶器・染織・木工・竹細工・和紙・漆器等を収集、朝鮮の李朝の白磁の素晴らしさも世に広めました。今回その思想に賛同し、共に民藝運動を推進した陶芸家の浜田庄司、河合寛次郎、バーナードリーチらの作品はもちろん、民藝運動のきっかけとなった木喰仏（もくじきぶつ）の穏やかさにも触れ、黒田辰秋の木工・螺鈿、棟方志功の迫力のある版画など数々の優品を堪能することができました。

柳宗悦の「見テシリソ 知リテナ見ソ」の言葉をかみしめる展示会でした。



昼食は美術館から歩いて5分の老舗蕎麦処「権太呂」へ。ここの胡麻豆腐は濃厚で絶品でした。

こうして急に秋めいた京都で、今年最後の美術館巡りの例会をしめくくりました。 作成…水口